

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分  
 【発行日】平成 17 年 6 月 23 日 (2005.6.23)

【公開番号】特開 2003-235849 (P2003-235849A)  
 【公開日】平成 15 年 8 月 26 日 (2003.8.26)  
 【出願番号】特願 2002-36762 (P2002-36762)  
 【国際特許分類第 7 版】

A 6 1 B 10/00  
 A 6 1 B 5/145  
 G 0 1 N 21/27

【F I】

A 6 1 B 10/00 E  
 G 0 1 N 21/27 Z  
 A 6 1 B 5/14 3 1 0

【手続補正書】  
 【提出日】平成 16 年 10 月 7 日 (2004.10.7)  
 【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】0 0 1 6  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【0 0 1 6】

信号処理部 30 は、装置全体の制御を行う制御部 34 と、光計測部 20 から送られる電圧信号（デジタル信号）を記憶するとともに信号処理後のデータを記憶する記憶手段 31 と、記憶手段 31 に記憶された電圧信号を処理し、生体情報を表す信号、具体的には計測部位のヘモグロビン濃度を表すヘモグロビン信号への変換や、トポグラフィ像の作成を行う処理手段 32 と、処理結果を表示するとともに計測や信号処理に必要な指示を制御部 34 に入力するための入出力部 33 とを備えている。さらに信号処理部 30 には、後述する負荷モードの計測において、計測の時間単位を制御する時計を備え、この時計からの動作信号に基づき計測と時間単位のデータ取り込み、データを用いた画像の計算と表示を行う。

【手続補正 2】  
 【補正対象書類名】明細書  
 【補正対象項目名】0 0 2 6  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【0 0 2 6】

また上記の生体光計測においては、タイムコースで表示される生データを観察することにより、ノイズの発生をリアルタイムで知ることができるので、ノイズの混入した計測データをその後の処理から削除することも可能である。このような判断は、リアルタイムで表示された計測結果を見て手動で削除の設定を行うこともできるが、処理手段 32 が自動的に判断することも可能である。このような自動判断は、図 3 にステップ 307 として示している。その場合には、予めタスク負荷時の相対濃度（或いは信号値）の閾値を定めておき、計測データがその閾値を超えたときに、大きなノイズが発生したとみなし、そのデータを計算から排除するとともに、その計測は繰り返し回数にカウントしないこととする。

【手続補正 3】  
 【補正対象書類名】図面  
 【補正対象項目名】図 1  
 【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 1】

